

令和元年度 ハンズオン支援の事例

津地域

榊原未来会議（津市）

伊勢地域

J A伊勢洋花部会（伊勢市）

伊勢農業協同組合紅茶生産者グループ（志摩市）

玉城町水田農業担い手土づくりの会（伊勢市・玉城町）

伊賀地域

霧生活活性化協議会（伊賀市）

尾鷲地域

三木里野菜塾（尾鷲市）

榊原未来会議（津市）

榊原地域は昭和の大合併、平成の大合併を経て、津市榊原町となりました。山と水田に囲まれた自然豊かな地域であり、また非常に古い歴史を誇るい湯である榊原温泉の旅館へ観光客が多く訪れます。

地域資源である温泉を軸とし、温泉を活かしたヘルスツーリズムや農業・森林・歴史・史跡等を活用したニューツーリズム、子どもたちへの自然資源・地域資源体験活動の提供により、訪れる人口を増やし、持続可能な地域を目指します。



スタートアップの取組

地域資源を活用しESD・SDGsを取り入れた子供を対象とした自然体験を実施していますが、安全安心に参加できるようにプログラムの実施方法を見直しています。



子ども用ライフジャケット

1 安全管理の勉強会の実施

子どもたちが安全に自然を体験できるよう、外部講師を招き「安全管理とリスクマネジメントの勉強会」等を実施し、安全な自然体験を提供できるよう努めています。



安全管理と
リスクマネジメント勉強会

2 安全対策用具の整備

夏場のプログラムの一つとして「榊原の川守プロジェクト」を実施し川のゴミ拾いを行っています。ライフジャケットを貸し出し、安全に活動できるよう企画しましたが、台風の影響で増水したため川周辺の清掃のみとなりました。



川守プロジェクトの様子

これからの取組予定

榊原地域振興を考える会の参加団体として地域内外と連携を強化して、持続可能な地域づくりを目指します。

1 榊原ならではのプログラム

地域資源を活かし、榊原ならではの体験プログラムを企画していきます。温泉、歴史、人の繋がり、自然を連携し他の地域にはできないプログラムの開発を検討します。

2 サイクルツーリズム

観光、農業、自然に自転車を活用したサイクルツーリズムに取り組みます。「健康」をキーワードにリフレッシュできるツーリズムを目指します。



榊原の地域振興を考える会
ワークショップ

JA伊勢洋花部会

(伊勢市)

当部会は昭和58年に組織され、主にガーベラの栽培に取り組んでいます。市場等でのガーベラ、カーネーションなどの洋花志向を背景に、他品目からの転換等もあり、栽培面積の拡大が図られてきました。

ガーベラは品種の変遷が早く、様々な花色のミニガーベラを中心に60品種ほどがほぼ周年で栽培され、JA伊勢を通じて京都、大阪、名古屋、県内の各市場に共同出荷されています。



スタートアップの取組

伊勢が高品質な洋花産地であるという認知度向上と洋花への関心を高める活動を行います。

- 1 産地のPRと、将来の花きの消費者及び伊勢洋花ファンづくり



品評会におけるステンレス製花筒の利用

伊勢市内で開催する品評会及び即売会を通じた情報発信により積極的な産地のPRに取り組みました。

より効果的な展示方法として、使用する花筒をステンレス製に変え、花を華やかに引き立たせ、会場の雰囲気もより明るくすることができました。

木製ボードの使用により、平面的なポスター展示では伝えられない品種の違いや立体感、色合い、質感等を視覚的に紹介することで、消費者の関心を高めました。



栽培している全品種を紹介

これからの取組予定

- 1 生産体制の強化
消費者を裏切らない、高品質な商品を提供するため、部会内で栽培状況、課題等の情報を共有し、栽培技術を向上します。
- 2 花育活動
小中学校生を対象とした圃場での収穫体験や、フラワーアレンジメント教室の開催により、生産者の思いなどを伝える花育活動をさらに充実していきます。

伊勢農業協同組合 紅茶生産者グループ

(志摩市)

明治から昭和にかけて、志摩市鵜方地区は全国規模の紅茶品評会で最優秀賞を受賞するなど、高品質な国産紅茶産地として有名でした。ところがその後、外国産紅茶の輸入自由化により安い紅茶が出回ると、価格が下落し国内の紅茶生産は衰退し、鵜方地区でも緑茶への転換が図られ紅茶生産は無くなりました。しかし、近年、紅茶好適品種の園地が残っていることが確認され、眠っていた地域資源として活用が期待されます。

安定生産に必要な担い手、人材確保を進めながら、かつての鵜方紅茶を復活させ地域ブランドとして確立することを目指します。



スタートアップの取組

地域ブランド商品としての認知度向上に向けて取り組みます。

1 オリジナルロゴの作成

イベントや商品パッケージ、鵜方紅茶紹介時等、統一ロゴを使用したPRに取り組みます。

2 販売戦略に向けた研修会開催

オリジナルロゴの活用方法、地域ブランドとしての販売戦略について関係機関が集まり、勉強することで、今後の活動に活かしていきます。



「鵜方紅茶」オリジナルロゴ



研修会風景

これからの取組予定

1 生産量の確保

紅茶好適品種の新植により生産量を確保します。また、茶葉の加工についても、品種、収穫時期にあわせた製造技術の確立に取り組みます。

2 商品のPR

地元観光業とのタイアップによる地域ブランドとしてのイメージ向上を図ります。

消費者が商品にもとめる情報は何かを意識しながら、関係機関一体となって取り組みます。

玉城町水田農業担い手土づくりの会 (伊勢市・玉城町)

農家の高齢化と減少により、年々担い手の水稲の受託面積が増えており、条件の悪い圃場も受けざるをえない状況となっています。

水稲単作ではあまり問題とならなかった地力の低下による生育不良や夏場の高温や台風といった気象の影響もあり、品質、収量の低下が深刻な問題となっています。

このような状況に加え、農産物の価格が低いところで推移しており、今後経営を安定的に継続していくには収量を確保し、より品質の良いものを安定的に供給していかなければなりません。そのためにも、知力増進を図るとともに持続可能な栽培管理を目指します。



スタートアップの取組

土壌調査により土壌の状態を把握し、土壌改良も含めた適切な施肥方法を検討していきます。

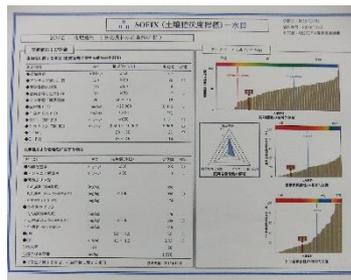
持続可能な栽培管理として、地元の畜産堆肥の利用が有効であると考えられています。堆肥施用の効果を高めるため、堆肥の特徴と土壌への効果を知ることが重要です。

そのため、従来の土壌分析だけでは分からない項目についても分析を委託し、堆肥施用による土壌への効果を確認することで、土壌改良も含めた施肥体系の見直しに取り組みます。

堆肥施用の小麦の生育



土壌の分析結果



これからの取組予定

1 畜産堆肥の利用推進

土壌分析結果を報告することにより、畜産堆肥の使用について、関心を高めます。

また、畜産堆肥の利用促進に向けた、供給体制の整備について検討します。

2 土づくりの継続

生育が悪くなってから対応するのではなく、適正な生育のため、継続的に圃場管理をするという意識付けをしていきます。

霧生活活性化協議会 (伊賀市)

霧生地区は伊賀市の最南端に位置する山林に囲まれ、海拔450mで夏は涼しく、冬は厳しい寒さにみまわれる地域です。地名のごとく濃霧の発生も多いところです。水田農業が中心で、農業経営は総じて零細で、高齢化や担い手不足により耕作放棄地が増加しています。

このような状況の中、「四季の森ブルーベリー」「霧生のこんにやく」の6次産業化に取り組む組織もあります。同組織のこれまでの知識経験を活用し、年間を通して活動できるパッションフルーツとアテモヤの栽培と商品化を進めます。



スタートアップの取組

1 商品づくりワークショップ

地域活性化プラン推進検討会議員の西井勢津子氏を講師に迎え、活動の目的と目標を具体的な言葉で共有し、事業を進めていくためのワークショップを実施しました。



ワークショップで活動の目的、目標を共有

2 商品ラベルの作成

「商品の顔」となるラベルのデザイン業務を専門家に委託し、ワークショップにより話し合われた目的に沿った新しい商品ラベルを作成しました。



パッションフルーツほ場



パッションフルーツの断面



パッションフルーツジャム
(旧ラベル)

これからの取組予定

「元気な霧生のために」

1 生果の安定生産

霧生地域に合ったパッションフルーツとアテモヤの栽培方法を確立し、安定的な生産を行います。

2 加工品の販路拡大

地域の観光施設や直売所等と連携して、販路拡大を図ります。

3 地域の組織との連携

地域のブルーベリー、こんにやく組織等と連携し、霧生の活性化のための活動を行います。

三木里野菜塾

(尾鷲市)

三木里地区は、尾鷲市南部の賀田湾に面し、温暖多雨な気候と黒潮によって古くからその自然の恵みを受け、周辺は緑豊かな森林で覆われ、夏は比較的涼しく、冬は温暖な気候です。

また、三木里町は人口520人、高齢化率63.7%（平成30年12月31日時点）と、住民の大半を高齢者が占める地域となっています。そうした地域の中で「三木里野菜塾」は、新規就農者を中心とした三木里地区の農業者と株式会社やきやまふぁーむ（就労継続支援B型事業所）で構成され、年に1度、地区内で野菜等の収穫祭を開催し、交流人口や関係人口の拡大に取り組んでいます。



スタートアップの取組

三木里地域の担い手不足、高齢化等の問題解決の糸口を見出すため、地域コーディネーターを交えて話し合いの場を設け、地域の方向性を検討しました。

1 ワークショップの開催

地域コーディネーターを交えてワークショップを開催し、三木里地区の今後について話し合いました。今後の活動として、移動販売や農業体験、収穫祭等を実施して地域を盛り上げていくことをメンバー内で共有しました。

2 収穫祭の開催

三木里野菜塾主催の「収穫祭」にも地域コーディネーターに参加いただき、アドバイスをいただきました。野菜等の販売以外にコーヒー等の飲食販売があることで参加者の対話が生まれていると評価していただきました。



ワークショップ



収穫祭

(キッチンカーを活用した農家レストラン)

これからの取組予定

1 キッチンカーを活用した農家レストランや農業体験

キッチンカーを活用した農家レストランを開くことで、生産者が三木里地区で意欲的に農業に取り組める環境を作ります。

また、子供向けの農業体験を開催し、地域外の方に足を運んでもらうことで、地域や農業の魅力を発信します。

2 誰もがやる気と生きがいを持って働ける地域づくり

生産した野菜等を販売に繋げることで、若手、高齢者、障がい者の全ての農業者がやる気と生きがいを持って働ける地域を目指します。また、豊かな自然資源や文化を活かした滞在型交流を促進することで、交流人口を拡大させ、地域おこし協力隊とも連携し移住・定住してもらえるような地域を目指します。

地域活性化プランに関する問合せ先

問合せ先	電話番号
三重県 農林水産部 担い手支援課	059-224-2016

地域機関の窓口	電話番号
桑名農政事務所 農政室 地域農政課	0594-24-7421
四日市農林事務所 農政室 地域農政課	059-352-0629
津農林水産事務所 農政室 地域農政課	059-223-5102
松阪農林事務所 農政室 地域農政課	0598-50-0515
伊勢農林水産事務所 農政室 地域農政課	0596-27-5164
伊賀農林事務所 農政室 地域農政課	0595-24-8108
尾鷲農林水産事務所 農政・農村基盤室 地域農政課	0597-23-3498
熊野農林事務所 農政室 地域農政課	0597-89-6122